

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-96

学校名・団体名	下関市立栗野小学校
HPアドレス	http://kam.edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/~awano_s/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	関わりの中で学ぶ～地域の教育力を活用した学校づくり
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>豊かな自然環境の中で、本校児童はのびのびと育っている。しかしながら、地域は年々過疎化が進み、今年度の児童数は7名。複式学級2クラスの極小規模校となった。少人数ゆえに子どもどうしの関わり合いの場が乏しく、学習面・生活面での経験不足が否めないという課題がある。こうした現状を受け、今年度は学校教育目標に「つながる子」を掲げ、栗野に誇りをもつ子、人や社会と積極的に関わる子、広い視野をもち、行動する子を育てることに力を入れ、地域の方々を含めた様々な「人」や「自然」に関わらせる活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>そうした中で、これからの教育や栗野地域のあり方を見据えたとき、子どもたちが主体的に地域と関わるような活動、また、地域の方々教育力を高めていくような活動を充実させていくことが必要であると考えた。さらに、隣接する滝部小学校との合同学習により、子どもたちが同年齢の友達と学び合える場づくりや、コミュニケーション力を向上させる場づくりを充実させていきたいと考えるものである。</p>	

1 「栗野駅をいこいの場にプロジェクト」(平成28年4月～29年3月)

ア プロジェクト開始に至るまで

地域と連携した教育活動が非常に充実した本校ではあるが、その多くは地域の方々为主体的に動き、少ない人数の児童たちが「していただいている」活動となっていた。こうした中で、「地域の方々には何とか恩返しができないか」という高学年児童の思いと、受け身的な立場であった児童に地域貢献をする機会を与えたいという教職員との思いが合致した。高学年児童が提案したのは、地域の人が多く住む地区にあるJR長門栗野駅の待合室を整備し、地域の人々が気軽に立ち寄り、憩いの場にする、という計画であった。しかしながら、年度当初に駅を訪れてみると、掃除が十分にされていない駅舎内にはゴミが散乱し、壁や床、椅子の上は多くの鳥の糞で汚れていた。掲示物もあまり無く、何の飾りもない駅舎はとても寂しい場所であった。



イ 清掃活動の開始

そこで、まずは3・5年生児童による駅舎の掃除が始まった。週に1度の掃除がそのうちに2回、3回と回数を増やし、毎週末の下校時に1・2年生たちも参加する全校児童での掃除が習慣化した。そうした中、保護者が児童の朝の集合場所を駅前にするのを提案し、それからは毎朝の掃除が功をわたり、

ウ 駅舎内の環境整備

JRの了承を得て、栗野小学校のことを知ってもらう掲示板も設けた。ここには児童が作成した毎月の壁新聞や学校だより、児童の絵を飾るようにした。また、自分たちの思いが先行することがないように、駅の利用客や地域の方々からのご意見を聞くためのアンケート用紙とポストも設置した。すると、毎日のように地域の方々から児童への励まし言葉やいろんなアイデアをいただくようになった。児童がそのお手紙に返事を書き、特設の掲示板に掲示することにし、こうして駅のポストを介して多くの方々と児童たちとの交流が始まった。

エ 地域への活動の広がり

児童の活動の様子が徐々に広まるようになり、地域の方々のご協力も得られるようになり、児童の掃除が行き届かない時に、そっと掃除をしてくれたり、花や素敵な飾りを持ってきてくれたりするようになった。また、駅に隣接するトイレをきれいに掃除したり、待合室の椅子の一つ一つに手作りの座布団を置いてくれたりする動きも出てきた。これは現在もまだ継続されている。年度末には児童のこうした取組が評価され、市より善行賞を受賞するに至った。



2 「栗野っ子アートフェスタ」(平成28年7月・11月)

① フェスタ開催の企画

1学期の終わりに児童たちが考えたのが「アートフェスタ」である。昨年度、山口県学校美術展の最優秀校に選ばれた本校の児童たちは、絵を描くことが大好きである。そこで、自分たちの絵を駅に飾って多くの方々に見ていただくという提案から、駅を期間限定の小さな美術館にさせていただくイベントを企画することに至った。また、ここでは、これまでお世話になった方々へのお礼として、学校で収穫した梅を使った梅ジュースや自分たちが採った青のりをを使った青のりカステラをお客さんに差し上げることにした。さらには、児童が育てている新鮮な朝採れ野菜の即売会を考えた。野菜を育てるための費用に充てるためである。

② フェスタについての情報発信

アートフェスタのポスター掲示を児童が地域の方々にお願ひして回った。児童ができるだけ多くの方々に顔を合わせてお願ひすることにしたが、皆が掲示を快諾してくださった。学校のホームページでもポスターを紹介したが、これをダウンロードし、自主的に地区内に掲示してくださる方々も出てきた。地域が児童の活動を支援する空気の高まりを感じる出来事であった。



③ 駅の一斉清掃

フェスタを前に、児童が駅舎をさらにきれいにしたいと考えたが、低学年の多い7名の児童だけでは手に負えない掃除も多かったため、地域の方々に掃除の協力を呼びかけた。何人の方々が協力してくださるか分からないまま迎えた一斉清掃当日、予想をはるかに超える30人以上の地域の方々が集まってくださった。こうして児童・PTA・地域の方々が一緒に汗を流し、駅舎の掃除を行うことができた。もちろん、この掃除のことを知ったJRからも応援が駆けつけた。



おかげで駅舎は見違えるほどきれいになり、気持ちよくフェスタを開催する準備が整った。当日の駐車場を準備するため、私有地を借りて草刈りをしてくださる方も出てきた。

④ アートフェスタ当日(平成28年7月19日)

当日は早くからフェスタの準備を駅舎内で行った。全家庭が参加し、いろいろな準備物を持ち寄り、開催の手伝いをくれた。小串警察署からは、フェスタ当日の交通整理の協力を申し出ていただいた。また、下関市教育委員会からも応援に駆けつけてくださった。そして開始時間前から多くの地域の方々が集まり、盛大にフェスタを開催することができた。



【アートフェスタの主な内容】

児童の絵画作品の展示と解説/児童が作った梅ジュース・青のりカステラのもてなし/児童が育てた新鮮野菜市/合唱 他

⑤ アートフェスタを終えて

地域の方々からの「次回もぜひ!」という多くの声を受け、アートフェスタ第2弾を企画し、11月末に実施した。このアートフェスタにも多くの地域の方々に参加していただき、大いに盛り上がった。特に第2弾では、地域の方々との「対話型鑑賞」や、「ともにつくる」ことを通し



たアートコミュニケーションを大切にしたいため、児童の対話力育成につながる豊かな造形活動の実践としても意義あるものになった。

このプロジェクトは現在も進行中である。児童がこうして主体的に地域に関わる活動を通し、社会への参画意識を高め、ふるさと栗野を愛する心を深め、そして、栗野地域の方々とのつながりをさらに深めることができることを期待している。長門栗野駅という小さな駅が、学校と地域とをより密につないでくれた。この小さな駅が児童の素敵なアイデアで、学校、そして地域に新たな元気をもたらしてくれたと考えている。また、駅のポストを通じて、7名の児童が、多くの「人」とつながることができている。いろんな人々の温かい心につれ児童の心がさらに豊かに育っていることを実感している。

なお、このアートフェスタで披露した児童の作品の多くは今年度の山口県学校美術展覧会で入賞し、昨年度に続き、今年度も栗野小が県最優秀校を受賞するに至った。



3 「ふるさとCM制作」(平成28年9月～11月)

児童が「栗野駅を憩いの場にプロジェクト」の一環として、JR長門栗野駅をPRするふるさとCMを制作することを考え、



CMに出演するエキストラ募集を呼びかけた。運動会の閉会式後のスピーチや、地域内でのポスター掲示の呼びかけ、地域の方々への個別の呼びかけも行った。撮影当日には多くの方がエキストラとして参加していただき、CM撮影は大変盛り上がった。児童が当日撮影した映像に、その前後に撮影したいくつかの映像を加え、担任とともにCMの編集を行った。このCMはTYS(テレビ山口)のふるさとCM大賞に応募したが、見事グランプリを獲得した。授賞式には全児童、全家庭の保護者、地域の方々も参加した。このことが地域の方々の栗野小への愛着を一層深めたと考える。



4 「わくわく教室」と「学校清掃ボランティア活動」

昨年度創設した「コミュニティルーム」の活用がなかなか定着しなかったため、4月より毎月15日前後に地域の方々と交流しながら学ぶ「わくわく教室」を開始した。ここでは、折り紙教室や読み聞かせ、工作教室、竹馬教室、書道指導、ほうぼく音頭講習などが行われ、毎回多くの地域の方々と児童とがふれあう素敵な時間となっている。

また、本校の地域コーディネーターの発案で、同日に学校の清掃活動を地域で手伝おうという「学校清掃ボランティア制度」が発足。小さな児童の多い本校では日頃なかなか手が届かない場所の掃除を中心に行ってくださっており、大変助かっている。

併せて、気が付いたときに学校の環境整備を、と不定期に校地内の剪定や運動場整備、草刈りなどに来てくださる方が増え、「さらに地域に愛される学校」づくりが進んでいる。



5 地域の方を招いた講演会の開催

ア よしながこうたく氏講演会(ワークショップ)

県教育委員会からの依頼を受け、「給食番長」の著者である絵本作家よしながこうたく氏のワークショップを開催するにあたり、地域の方々に参加を呼びかけた。当日は講師が児童への絵本の読み聞かせを行った後、児童と一緒に「栗野小のご当地キャラ」を創り上げる活動を取り入れたワークショップを行った。これには、保護者・地域の方々も参加し、大いに会を盛り上げてくれた。この会で、児童がこうたく氏とともに創ったキャラクター「をえそきいさん」がこの度、ポストカードになり、商品化されることになった。ポストカードには、栗野小学校舎や7名の本校児童描かれており、地域の方々と共に喜んでいる。



イ 国際理解講演会(JICA中国ワークショップ)

本校がJICA中国より推進員を講師に迎え、開催した世界を知るワークショップに多くの地域の方々も参加した。ここでは、いろいろなアクティビティを通して世界の現状や人権について共に学ぶことができた。

6 ホームページでつながる学校と地域

栗野小学校のホームページは、全家庭数4の極小規模校としては希に見る閲覧数である。1日に約400の閲覧があり、総数は現在50万カウントを超えている。地域の方々を含めた多くの方が閲覧されていることが伺える。ほぼ毎日更新されることと、内容の面白さが人気となっているが、こうした情報発信により、地域の方々が学校の教育活動を知り、また関心をもつことで、学校と地域とのより良い関係づくりや、双方が同じベクトルをもって児童を育てることができると思われる。



7 滝部小学校との外国語活動

本校の5年生児童2名が月に1度、隣接する滝部小学校の5年生と外国語活動を通して関わる場づくりを進めてきた。より多くの友だちと英語を使って関わる活動ができ、児童のコミュニケーション力向上につながっていると考える。授業は滝部小の担任と本校校長とがT1・T2を交替する形で進めた。両校の学習進度の違いなどで難しい点はあったが、それぞれの学校において外国語活動に関する研修も深まっている。次年度に向け、さらに充実した交流を願っている

8 成果や課題

栗野の子どもたちが育っていくこれからの時代には、情報化・グローバル化など急激な社会的変化が予想される。今以上に情報が世界中を飛び交い、また、人や物が国境を越えて行き来する時代になり、さらに、人工知能が進化による社会構造の変化も予想されている。そうした中、「未来の創り手」となる子どもたちにとって必要な資質・能力を今のうちに育てておく必要がある。そのために、学校が進める「地域をフィールドに学ぶ教育活動」では、学んだことをもとに地域社会に関わる活動を意図的に仕組み、課題解決のための追究活動を通して、「学んだこと」を「深い学び」にしていくことを大切にしている。これらの活動の中で子どもたちは「ふるさと」に対する意識を高め、愛着を深めており、これは、グローバル化が進む時代だからこそ育てたい「国際人としてのアイデンティティ」につながるものと考えている。こうした活動を進める上で大切なことは、子どもを育てるために保護者・地域・学校が同じベクトルで臨むことである。子どもの豊かな学びの場づくりのために、今後も地域と連携した教育活動を推進し、栗野小学校のブランド化に向けた教育に取り組んでいきたい。